

日本電動化アクション ブルー・スイッチ



日産自動車は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



- 02 | ブルー・スイッチとは
- 03 | ブルー・スイッチとSDGs
- 04 | ブルー・スイッチ 地域との連携
- 05 | 日産自動車のEVラインアップ
- 06 | 脱炭素化
- 07-08 | 強靱化（災害対策）
- 09 | エネルギーマネジメント
- 10 | サーキュラーエコノミー
- 11 | サステナブルツーリズム
- 12 | イベントでのEV活用
- 13-14 | 地域交通
- 15 | 次世代教育
- 16 | EVの蓄電池利用



美しい日本を、さらに美しいブルーに

人とクルマと自然が共生するゼロエミッション社会の実現により、「日本をさらに美しいブルーに、さらに美しい国に」との想いを込め、電気自動車（EV）の持つ価値を活かして社会を変革し、地域の課題を解決する日本電動化アクション「ブルー・スイッチ」をパートナーの皆様と共に推進しています。

人とクルマと自然の共生
美しい日本を、さらに美しいブルーに

脱炭素化

強靱化（災害対策）

エネルギーマネジメント



バッテリー二次利用



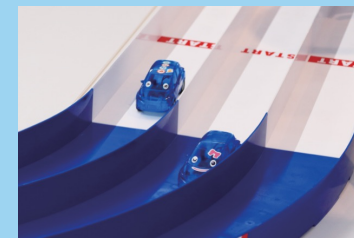
サステナブルツーリズム



地域交通



次世代教育



EV普及促進（走行中CO₂ゼロ、高い静粛性、大容量蓄電池）

SDGs達成への貢献とブルー・スイッチを通じたアプローチ

4 質の高い教育を
みんなに



持続可能性を深く理解する生涯学習機会を提供

- 次世代教育を通じ未来を担う若い世代の環境意識向上に貢献

12 つくる責任
つかう責任



使用済みEVバッテリーの再利用、再製品化により貢献

- 資源の有効活用に貢献

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



EV活用による再生可能エネルギーの利用促進

- V2H、V2Bを活用した分散型エネルギーマネジメント（地産地消）
- 太陽電池をEVで蓄電

13 気候変動に
具体的な対策を



EVの普及により、CO₂を排出しないゼロエミッション社会の実現に貢献

- EVのモデル拡充

8 働きがいも
経済成長も



観光地のアクセシビリティの改善や新たな産業創出など、地域の産業振興に貢献

- EVカーシェアおよびラストワンマイルの確保
- EVバッテリーの二次利用

15 陸の豊かさも
守ろう



EVを活用した持続可能な観光の実現

- EVユーザーやEVレンタカー利用者の優遇施策

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



EVを活用した革新的な商品・技術・サービスを提供

- EVを活用したVPP構築
- EVバッテリーの性能向上と活用

17 パートナースhipで
目標を達成しよう



自治体、企業など多くのパートナーシップによって社会課題を解決

- 自治体・企業との連携

11 住み続けられる
まちづくりを

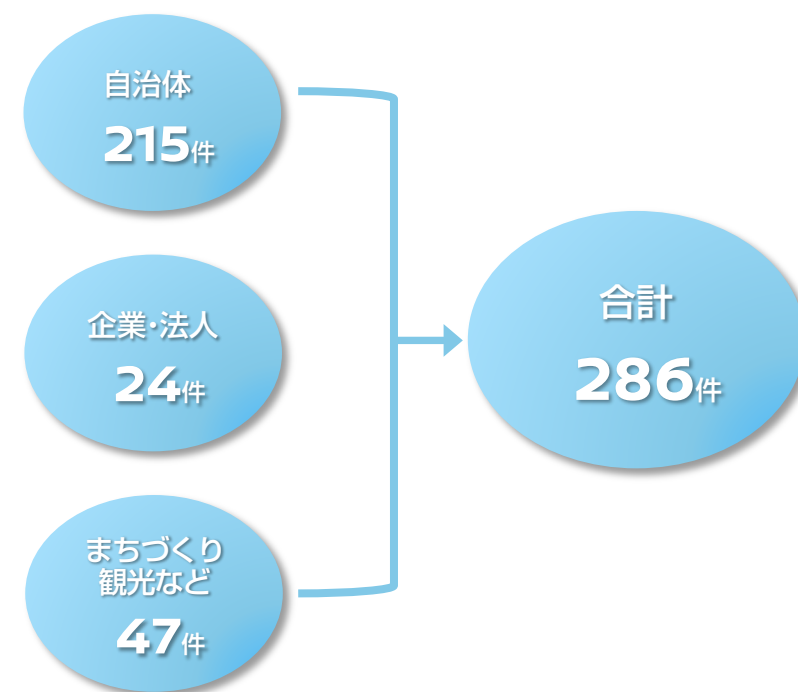


都市から過疎地におけるモビリティ、災害時の電力供給を可能にする“走る蓄電池”の可能性を拡大

- “走る蓄電池”としてEVからの電力供給
- EVを活用した交通弱者サポート



2018年5月にスタートした
「ブルー・スイッチ」の連携は、
日本全国各地に広がっています。



● : 連携発表済み
自治体・企業所在地



日産アリア



- 乗車定員：5名
- バッテリー総電力量：66kWh(B6)/91kWh(B9)
- 航続距離(WLTCモード※)：460km～640km

日産リーフ



- 乗車定員：5名
- バッテリー総電力量：55kWh(B5)/78kWh(B7)
- 航続距離(WLTCモード※)：461km～702km

日産サクラ (軽自動車)



- 乗車定員：4名
- バッテリー総電力量：20kWh
- 航続距離(WLTCモード※)：180km

日産クリッパーEV (軽商用EVバン)



- 乗車定員：2シーター 2名 / 4シーター 2(4)名
- バッテリー総電力量：20kWh
- 航続距離(WLTCモード※)：180km

※一充電走行距離は定められた試験条件での値です。お客さまの使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)、整備状況(タイヤの空気圧等)に応じて値は異なります。電気自動車は、走り方や使い方、使用環境等によって航続可能距離が大きく異なります。●一充電走行距離の表示は、「WLTCモード」です。●WLTCモードは、「市街地」「郊外」「高速道路」の各走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な走行モードです。

EV利用促進による脱炭素化推進 ワークプレイスチャージング

ワークプレイスチャージングとは、職場でのEV充電環境を確保することにより、従業員や来訪者の通勤車両、社用車のEV利活用を促す取り組み。従業員へのEVの導入推進や社用車のEVへの順次入れ替えにより脱炭素を推進。

導入メリット

- ・ 企業の環境イメージの向上、BCP対策。
- ・ 従業員には職場での充電によりEVの利便性を向上。
- ・ 近隣住民には排出ガス抑制による環境保全効果。
- ・ 企業、従業員、地域とWIN-WINの関係構築。



EVを災害時の電力として活用

練馬区は、公用車にEVを導入し安全・安心パトロールカーとして区民の安全を守る「公助」、区民が所有するEVを災害時に避難所で活用する災害時協力登録者制度の構築、区内の日産販売店のEV試乗車を災害時に非常電源として活用する「共助」により、自治体全体の自助力を向上させ、区民を災害から守る取り組みをしている。

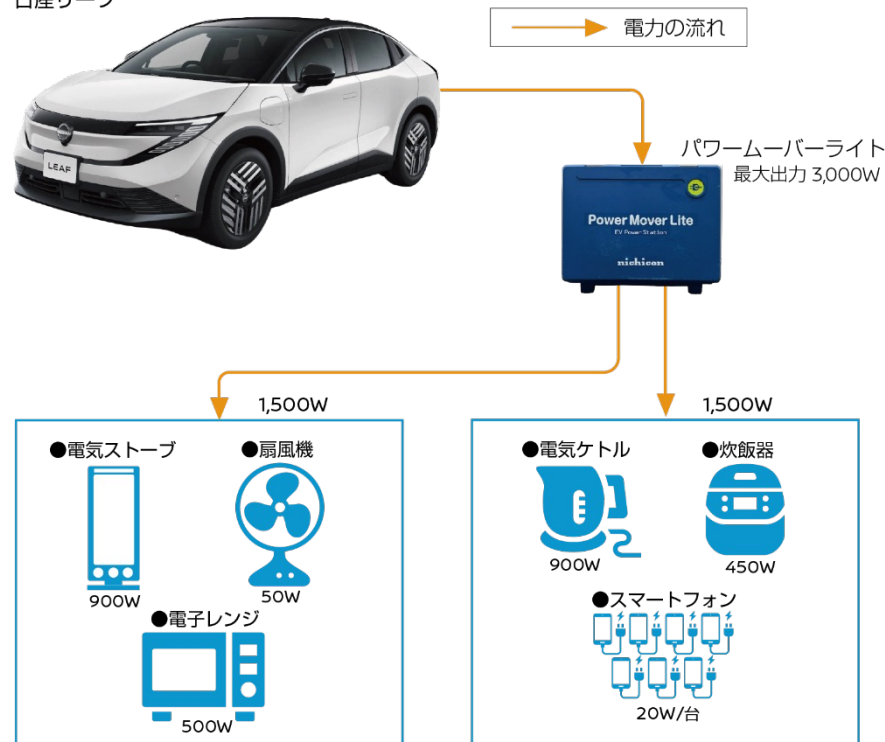
練馬区のEVに関わる取り組み

- ・ 災害時に、区内の日産の販売会社からも停電時には日産のEVを貸与し、避難所の電源として利用する。
- ・ 災害時に、区内の日産の販売会社に設置してあるEV急速充電スタンドを利用できる。
- ・ EVを所有する区民を対象に実施している、災害時協力登録者制度の周知を区内の日産の販売会社がサポートする。
- ・ イベントなど、EVの普及促進に関する活動を実施する。



災害時のEVの活用方法

日産リーフ

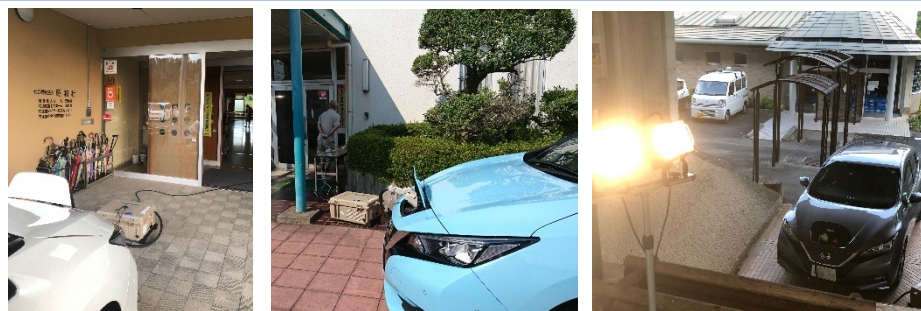


※上記の例は、自社算出した試算値になります。
実際の値と異なる場合があります。

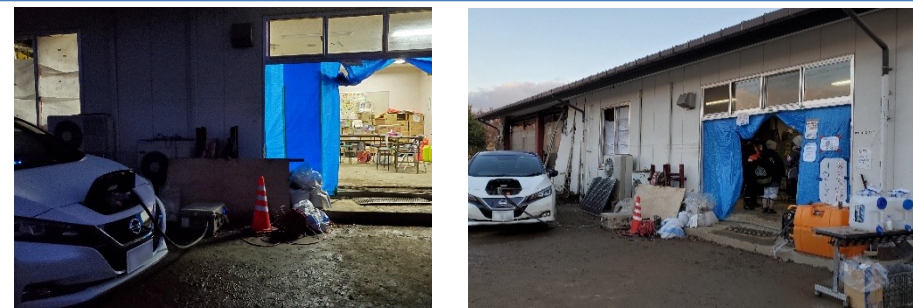
EVを非常用電源として使用した実例

令和元年房総半島台風（15号）や同年台風19号による千曲川堤防決壊、災害による停電発生時に日産のEVを自治体、福祉施設、ボランティアセンターなどに貸与し、電力を供給。照明、情報収集のための通信機器のほか、扇風機や電気ストーブ、洗濯機など幅広い電化製品を稼働させた。令和6年能登半島地震の際も、スマートフォンの充電にEVが活用された。

令和元年 房総半島台風（15号） 53台のEVを提供



令和元年 東日本台風（19号）



令和2年7月 熊本豪雨



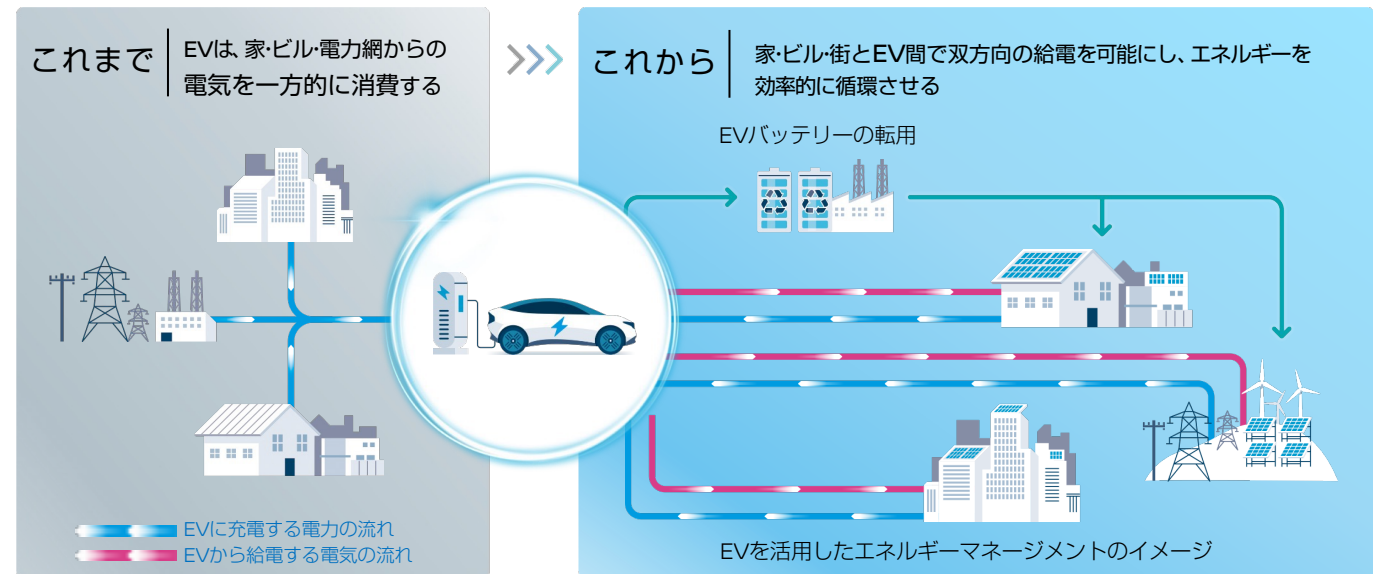
令和6年 能登半島地震



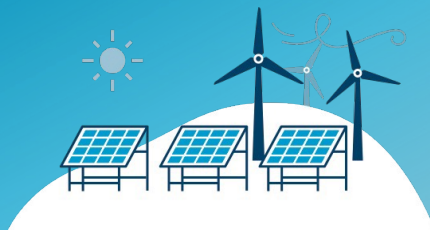
ブルースイッチ活動は「強靱化(レジリエンス)」に関する先進的な活動を発掘、強化し、表彰する「第6回ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2020」の最優秀賞を受賞。

EVを活用したエネルギー管理

- ・EVのバッテリーは大容量のエネルギーを蓄えることができ、移動可能な蓄電池として建物や地域など用途に応じて様々な場所で利用可能。
- ・再生可能エネルギーなどの電力を、EVやバッテリー、日産の技術を通じて効率的に活用し、総合的なエネルギーマネジメントを通して安定的で豊かな社会を支えることに貢献。

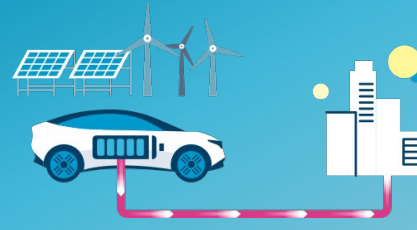
 EVを活用したエネルギーマネジメントでできること

再生可能エネルギーの効率的な利用



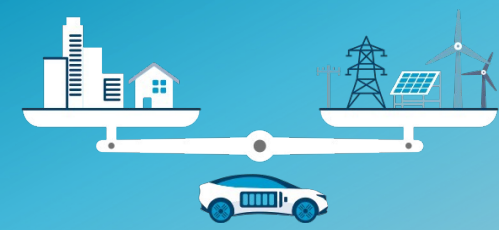
再生可能エネルギーと組み合わせることで効率的な
利用と、エネルギーの地産地消に貢献

カーボンニュートラルへの貢献



EVを活用したエネルギー管理の普及により、
地域のカーボンニュートラル化を推進

電力系統の安定運用



EVのバッテリーは大容量のエネルギーを蓄えることができ、社会の電力需給の安定化に貢献

EVバッテリー二次利用

- ・EVで使用されていたバッテリーは、クルマとして長期間使用した後も高い残存性を有しているため、さまざまな用途への再利用が可能。
- ・フォーアールエナジー社*は、車載バッテリーの再利用技術、再製品化、販売により、脱炭素社会・サステナブルな社会の実現にむけて好循環サイクルを創出。

再生可能なリチウムイオンバッテリーを有効に活用



日産リーフのバッテリー



非常用蓄電池付き
太陽光パネル街灯



踏切保安器用
バックアップ電源



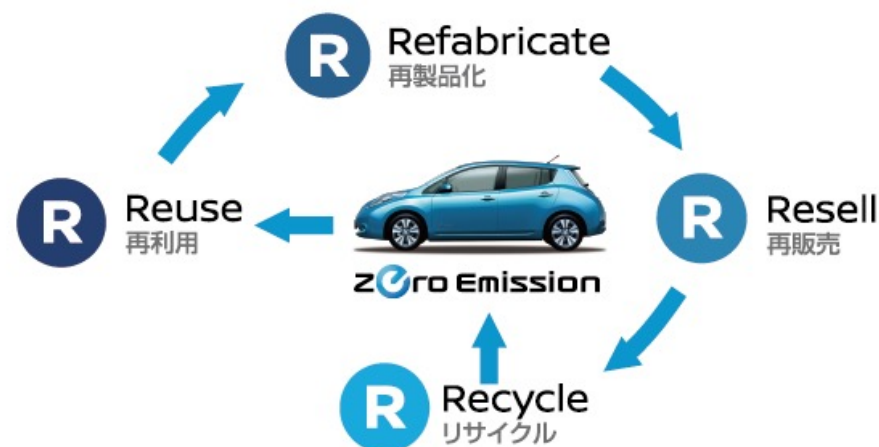
日産純正ポータブル蓄電池
「Portable battery from LEAF」



大型・中型蓄電施設



4R ENERGY



* フォーアールエナジー社は、日産自動車と住友商事の共同出資会社

EVを活用したサステナブルツーリズム

- ・観光地でEV優遇策を実施することにより、温室効果ガスの削減や観光の活性化などに取り組む。
- ・対象となる駐車場の無料化、有料道路・観光施設での割引、宿泊施設や道の駅での割引、ワンドリンクサービス等。

取り組み例

- ・日産自動車はドライブマップなどの制作を通して、自治体と連携しEVでの来訪を推進。



※日産自動車（EV）でめぐる戦国ディスカバリー滋賀・びわ湖ドライブマップのキャンペーン期間は令和8年12月31日まで

EV優遇策用ブルー・スイッチカード

- ・EV優遇策実施事業者のカウンターなどでブルー・スイッチカードを提示することで、簡易的に優遇策を受けることが可能。



日産EV
オーナー用



日産レンタカー等に搭載



国立公園
オフィシャルパートナー

●：EV優遇策実施地域

イベントでのEV活用例

イベントでEVを活用することにより、環境イメージの向上や温室効果ガスの削減につながり、EVの3つの価値である大容量バッテリーによる電力供給、電力供給中も排出ガスゼロ、静粛性に優れている点を活かすことが可能。

先導車としての活用

- ・ 排出ガスゼロのEV先導車は、後ろを走るマラソンランナーへの負担もなく参加者から好評。



横浜マラソン

野外イベントで電力源としての活用

- ・ 発電機と異なり騒音の発生が無く静粛性に優れたEVは、屋外での使用にも最適。



ブルーアースミュージックFES in 水戸

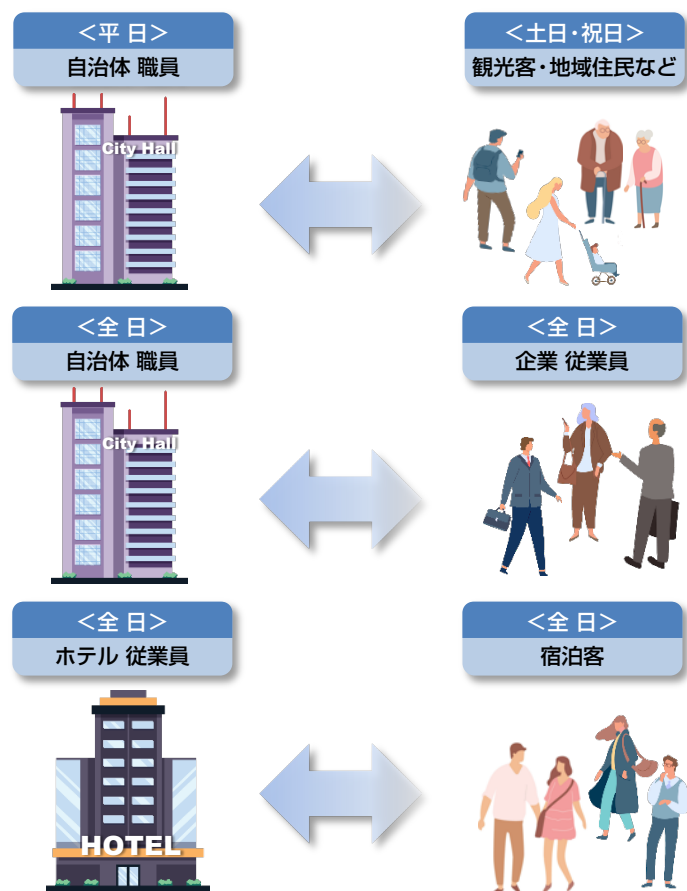


長浜市 ランタンフェスティバル

公用車・社用車のEVをカーシェアリング

- ・移動の利便性向上と環境負荷低減による住み続けられるまちづくりのために、公用車や地域企業で利用されている電動車両の遊休時間を活用し、カーシェアリングを展開。地域住民や観光客とシェアすることにより、環境負荷低減とコスト削減に貢献。
- ・災害時にはBCP対策としても利用可能。

EVカーシェアリング例



乗り合いタクシーのEV化

- ・ 乗り合いタクシーは、お客様同士が相乗りするサービス。低料金で利用できるという路線バスの長所と自宅近くで乗降できるというタクシーの長所を融合。
- ・ 乗り合いタクシーをEV化することにより、環境負荷低減に貢献。

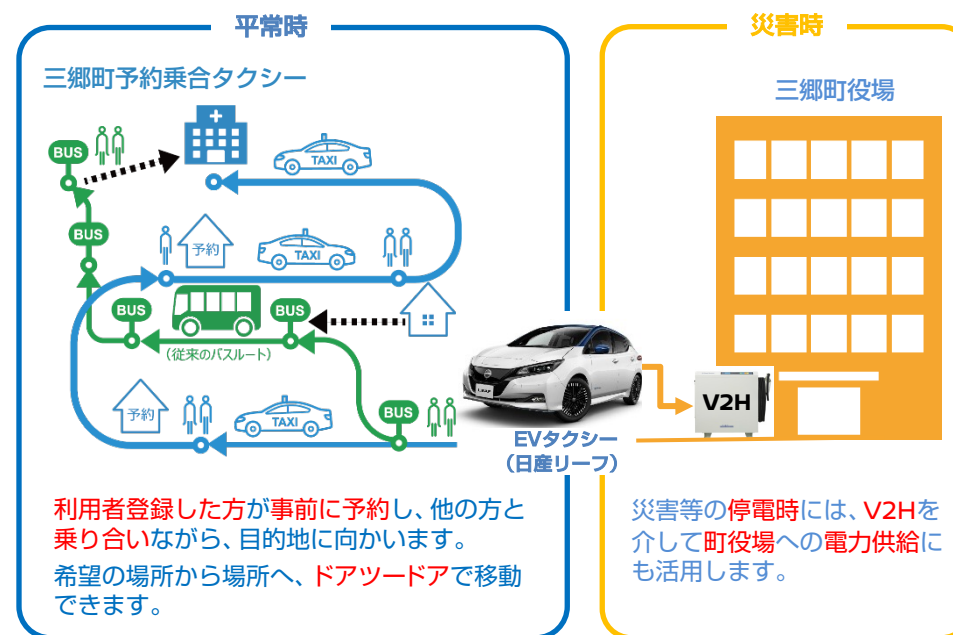
熊本県荒尾市の例

- ・ 環境負荷低減のため、路線バスを補完する新しい公共交通である乗り合いタクシーとして日産リーフを導入。
- ・ 市内全域で利用でき、買い物、通院のほか、ビジネスや観光などに利用可能。
- ・ 地域で発電した電力タクシーである日産リーフに充電し、電力の地産地消を実現。



奈良県三郷町の例

- ・ 環境負荷低減を災害対策として、乗り合いタクシーの一部を日産リーフに変更。
- ・ 災害時にはV2Hを設置している町役場への電力供給にも活用。



次世代教育

地球環境問題やEVの仕組みが学べる体験型授業を実施し、未来を担う若い世代の環境意識を高める機会を提供。

小学生向け環境教育

- ・ 地球温暖化問題とEVの貢献を座学で学び、モデルカー実験を通じて、EVの仕組みや蓄電池としての使い方を学ぶ体験型講座。
- ・ 2008年開始以降、延べ13万人以上の児童が体験。

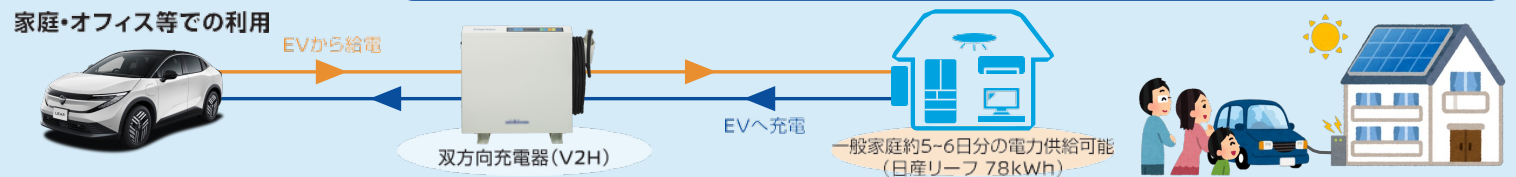


若者向け啓発活動

- ・ カーボンニュートラル（CN）やSDGsをテーマにCNの重要性とEVの役割を学ぶ。
- ・ EV試乗やEVから電気を取り出すデモンストレーションも実施し理解を深める。



V2Hを活用し、EVの大容量バッテリーを家庭で蓄電・電力供給にかけこく利用



車内コンセント・外部コネクタを使用し、アウトドアアクティビティでも活躍



「走る蓄電池」として停電時には避難所でEVから電化製品へ電力供給



蓄電池としての容量

日産アリア

一般家庭の

約 **6** 日分*

の電気を蓄電
91kWhの場合

日産リーフ

一般家庭の

約 **5~6** 日分*

の電気を蓄電
78kWhの場合

日産サクラ
日産クリッパーEV

一般家庭の

約 **1** 日分*

の電気を蓄電
20kWhの場合

* 一般家庭の1日あたりの使用電力量12kWhでの試算値。V2H等の変換効率を含みません。